

No.2601

現代インドにおける政治と暴力に関する州間比較研究
—地域連携と予防の効力を中心に—

神戸大学大学院国際文化学研究科 博士後期課程
油井 美春

本研究では、インドの州政治とヒンドゥー・ムスリム間暴動の発生および予防との関係性について、マハーラーシュトラ州とグジャラート州の比較から、予防活動の成立要件と特質を分析し、統治機構の機能不全を解消しうるか考察する。

1年目には、主にマハーラーシュトラ州におけるコミュニティ・ポリシングによる暴動予防活動の分析を行った。その成果は、2件の国内外での学会報告および1編の査読付き英語論文として公表した。4th International Conference on Humanities, Society and Cultureにて、“Effectiveness of Riot Prevention through Community Policing in India: The Practices of the Mohalla Committees”との報告を行い、査読付き英語論文として *International Journal of Social Science and Humanity*, Vol.5, No.10 (pp. 865-871) に掲載された。日本国際政治学会 2014年度研究大会にて、「暴動後社会におけるコミュニティ・ポリシング活動の効果—インドの事例を中心に—」との報告を行った。暴動研究と犯罪研究を融合し、暴動は犯罪から派生、悪化した段階との暴動サイクル概念を提起、予防する枠組みとして、コミュニティ・ポリシングが機能してきたことを論証した。

マハーラーシュトラ州ムンバイでコミュニティ・ポリシングによる暴動予防活動に参画してきたヒンドゥー、ムスリム、クリスチャンの住民および州警察に対して、活動の効果および課題についての聞き取り調査、定例会合への参与観察を行った。2014年10月に州議会選挙が実施され、過去の暴動の加害者であったヒンドゥー・ナショナリスト政党であるインド人民党、シヴ・セナーが政権を掌握した。住民からはムンバイのコミュニティ・ポリシング活動は持続しているものの、政治の右傾化を危惧する見解を得た。右傾化しつつある州政治が暴動予防活動にいかなる影響を及ぼすのか、さらなる継続した分析と評価が求められる。